

今日のトピック 好調なASEAN 4のGDP（2016年4-6月期）

フィリピンやインドネシアが牽引役

ポイント1 ASEAN4の成長率は加速

■ 東南アジアの経済は、中国景気の減速によって輸出が不振に陥り、足踏み状態が続いていましたが、各国の財政支出の増加などを受けて回復の傾向が見られます。特に、ASEAN4（フィリピン、インドネシア、タイ、マレーシア）の多くはGDP成長率が加速するなど好調さを増えています。

ポイント2 フィリピン、インドネシアが好調

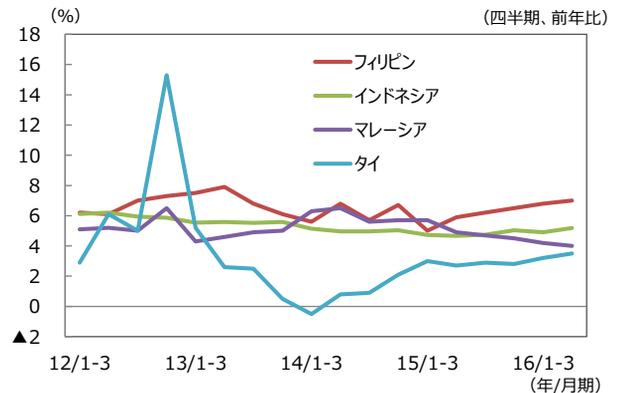
■ フィリピン：2016年4-6月期の実質GDP伸び率は前年同期比+7.0%と、1-3月期（同+6.8%）から加速しました。政府支出に加え、投資と消費が増加しました。

■ インドネシア：4-6月期GDPは同+5.2%と、前期（同+4.9%）よりも伸び率が上昇しました。イスラム教の断食月（ラマダン）に伴う個人消費やインフラ開発の政府支出が伸びました。

■ タイ：4-6月期GDPは同+3.5%と、前期（同+3.2%）から加速しました。干ばつ被害の収束で農村所得が持ち直したこともあり、消費が伸びました。

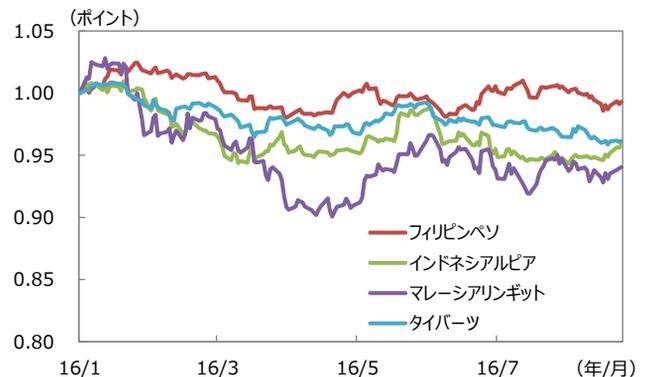
■ マレーシア：4-6月期GDPは同+4.0%と、前期（同+4.2%）から伸び率が縮小しました。消費は底堅かったものの、天候不順で農業部門が落ち込んだことが響きました。

ASEAN4の実質GDP



(注) データは2012年1-3月期～2016年4-6月期。
(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

ASEAN4の通貨（対米ドル）



(注1) データは2016年1月1日～2016年8月24日。
(注2) 2016年1月1日の各通貨の対米ドルレートを1として指数化。
(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

今後の展開 通貨は堅調に推移すると期待

■ ASEAN4の通貨は、前半、投資家のリスク回避の動きから対米ドルで下落しましたが、米国の利上げ観測の後退や中国景気の持ち直し傾向などから、戻り歩調となっています。相対的に経済が好調なASEAN4の通貨は、今後も堅調に推移すると期待されます。

ここもチェック! 2016年7月13日 「アジア」マクロの魅力を再評価①
2016年5月20日 ASEAN4の経済見通しと金融政策

■ 当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■ 当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■ 当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■ 当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■ 当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■ 当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■ 当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。